

按ズルニ本件ノ法律案ハ今次ノ支那事變ニ  
際シ召集セラレタル者ヲシテ其ノ解除後直  
ニ衆議院又ハ地方議會ノ議員ノ選舉權ヲ行  
フニ支障ナカラシメ且地方議會議員ノ失職  
ヲ回復セシムル爲メ關係法令ノ本則ニ對シ  
相當ノ特例ヲ設ケントスルモノニシテ其ノ  
趣旨ニ於テ之ヲ妥當トスベク其ノ條項ニ於  
テモ特ニ非議スベキ廉ヲ認メザルニ由リ此  
ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベシト思料ス  
右謹デ審査ノ結果ヲ報告ス

議長(平沼) 別ニ御發言ナキ故直ニ採決スベシ  
本案賛成ノ各位ノ起立ヲ請フ

(全員起立)

議長(平沼) 全會一致可決セラレタリ

○

議長(平沼) 次ニ

臺灣總督府地方官官制中改正ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シ  
テ直ニ審査報告ヲ爲サシム

報告員(村)上 謹デ此ノ案件ヲ審査シタルニ今  
次ノ支那事變ニ關聯シ臺灣ニ於テモ内地ノ  
税制改正ニ從ヒ所得税法人資本税砂糖消費  
税及酒類出港税ヲ增徴シ通行税入場税及特  
別入場税ヲ新設シ利益配當税竝ニ公債及社  
債利子税ヲ繼續シ物品税ノ課税種目ヲ增加  
シ事變利得ニ對シテ臨時利得税ヲ賦課シ此  
等ノ税則ノ改正ニ依リ通ジテ平年度金三百  
七十八萬五千餘圓ノ租税增收ヲ見込ニ其ノ  
中徵稅費ヲ控除シタル金額ヲ臨時軍事費特

別會計ニ繰入ルルコトトシタル處此等ノ租  
税課徴ニ關スル事務中地方ノ州及廳ニ於ケ  
ル物品税入場税及特別入場税ノ賦課竝ニ各  
種租税ノ一般徵收就中滯納處分ニ關スル事  
務ハ現在ノ職員ヲ以テハ到底支障ナク之ヲ  
處理スルコト能ハザルニ由リ茲ニ本件ヲ以  
テ臺灣總督府地方官官制ノ現行規定ニ一部  
ノ改正ヲ加ヘ右等ノ事務ニ從事セシムル爲  
メ州及廳ノ職員中屬二十四人ヲ増員セント  
スルモノニシテ此ノ増員ニ要スル經費ハ既

ニ本年度歳出豫算ニ計上セラレタリ乃チ本  
件ハ現下ノ時局ニ際シ臺灣ニ於ケル稅務ノ  
増加ニ因リ地方廳職員ノ定員ヲ若干増加セ  
ントスルモノニシテ別ニ支障ノ廉ヲ認メザ  
ルニ由リ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベシト  
思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

議長(平沼) 別ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ  
省略シテ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ  
起立ヲ請フ

(全員起立)

議長(平沼) 全會一致可決セラレタリ

○

議長(平沼) 次ニ

日本國伊太利國間通商航海條約追加協定  
御批准ノ件

ヲ議題ニ供ス本案ハ先例ニ依リ讀會ヲ省略  
シテ大體議ニ止メ朗讀ヲ省略シテ直ニ審査  
報告ヲ爲サシム

報告員(村)上

謹デ此ノ案件ヲ審査シタルニ大

正元年十一月調印ノ日本國伊太利國間通商  
航海條約ハ大正五年十二月伊太利國政府ヨ  
リ廢棄ヲ通告シ來リタルニ依リ同六年十二  
月末日限り其ノ效力ヲ失フベキ筈ナリシモ  
爾後幾タビカ暫定取極ヲ以テ其ノ效力ヲ延  
長セラレ大正八年九月締結ノ暫定取極ニ依  
リ該條約ハ兩國ノ一方ガ一月前ノ豫告ヲ以  
テ之ヲ廢棄スル迄其ノ效力ヲ持續スルモノ  
トセラレ以テ今日ニ迄ベリ此ノ條約ハ我方

ニ在リテハ諸外國トノ通商條約ニ於ケルト  
同ジク内地ノミナラズ朝鮮其ノ他一切ノ外  
地ニ之ヲ適用スルモ伊國側ニ在リテハ主ト  
シテ本國ト殖民地屬地トガ別箇ノ關稅制度  
ヲ有スルガ爲メニ其ノ本國ノミニ適用セラ  
レ殖民地屬地ニハ適用ナキモノナリ而シテ  
帝國トエテイオピア國トノ間ニハ昭和五年  
十一月調印ノ修好通商條約アリテ相互ニ居  
住通商及關稅ニ付最惠國待遇ヲ保障シ兩國  
間ノ貿易ハ先方ヨリノ輸入ハ皆無ニ近キモ

機密

我方ヨリハ主トシテ綿布年額約一千萬圓ヲ  
輸入スルニ至リシガ如カリシモ該條約ハ昭  
和十一年五月同國ガ伊太利國ニ併合セラレ  
タルニ因リ消滅ニ歸シ我方ヨリノ右輸入モ  
杜絶シタル處伊國政府ヨリ帝國政府ニ對シ  
帝國ガエテイオピアニ於テ有シタル權益ニ  
特別ノ考慮ヲ拂ヒテ帝國トエテイオピアト  
ノ間ノ通商關係ヲ規律スベキ協定ヲ日伊兩  
國間ニ成ルベク速ニ締結センコトヲ希望ス  
ル旨ノ申出アリタルニ基キ同年十二月兩國

代表者間ニ其ノ交渉ヲ開始セシメタルニ伊  
國政府ヨリ日本國伊太利國間通商航海條約  
ニ若干ノ變更ヲ加ヘテ之ヲ其ノ本國ノミナ  
ラズ伊太利領殖民地(即チ領東アソマリカラ殖民地)  
ピエアリ並ニレリア及アエテ民地オ及同屬地(伊領多島全)  
體ニ適用スルコトトセンコトヲ提議シ我方  
ハ之ニ同意シ此ノ點ヲ主眼トシテ折衝ヲ重  
ネタル結果妥結ニ達シ客年十二月三十日  
一マニ於テ兩國代表者ガ本件ノ追加協定ニ  
署名調印ヲ爲スニ至レリ

本協定ノ要旨ハ(一)現行ノ日本國伊太利國間  
條以下之稱ヲ基本通商航海條約ハ伊太利國ノ殖  
 民地及屬地ニモ適用セラルルモノトシ(二)日  
 本國臣民ノ右地域ニ於ケル入國及產業又ハ  
 職業ニ從事スルコトニ關シテハ伊太利國市  
 民ト同一ノ待遇ヲ受ケ商業產業又ハ金融業  
 ヲ目的トスル日本國ノ會社及組合ノ右地域  
 ニ於ケル活動ニ關シテハ伊太利國ノ同種ノ  
 會社及組合ト同一ノ待遇ヲ受クルモノトシ  
 (三)日本國ト伊太利國殖民地及屬地トノ間ニ

於ケル產品ノ相互輸入ニ關シテハ基本條約  
 所定ノ協定稅率ヲ適用セザルコトトシ(四)關  
 稅ニ關シ兩國ノ一方ノ本國ト屬領トノ間又  
 ハ其ノ屬領相互間ニ於テノミ認メラルル特  
 典及日本國ガ滿洲國ニ與フル殊遇ニ付テハ  
 基本條約ニ於ケル最惠國待遇ノ規定ノ適用  
 ナキモノトシ(五)日本國船舶ガ伊太利國殖民  
 地及屬地ノ港ニ入港スルコト竝ニ伊太利國  
 ノ本國ト殖民地及屬地トノ間又ハ其ノ殖民  
 地及屬地相互間ニ於テ旅客及商品ヲ輸送ス

機密院

ルコトニ關シテハ伊太利國船舶ト同一ノ待遇ヲ受クルモノトシ(六)本協定ノ規定ハ所謂「コンゴ」盆地條約商コンゴ自由ト金地會ノ於ケル通ニヲ伊領ソマリラン條約及エテ俱オビ適用地域中モヲ含ミ加伊兩國トノ適用ヲ妨グルモノニ非ザルコトヲ明ニシ(七)基本條約所定ノ通商航海自由ノ原則ニ拘ラズ暫定的措置トシテ日本國產品ノ伊太利領東アフリカニ對スル輸入年額ハ前年中日本國ニ輸入セラレタル伊太利領東アフリカ產品ノ價額ヲ限度トシテ

之ヲ制限スルコトヲ得右雙方ノ輸入價額ハ兩國間ノ運賃ヲ收得スル輸送船舶ノ國籍ヲ斟酌シテ之ヲ算定スベク右產品ノ輸入ニ付テハ原產地證明書ヲ提出スベキモノトシ先方ヨリノ輸入ハ主トシテソマリランド及エリトレアノ工業用鹽年額約四百五十萬圓ニシテ之ヲ限度トシテ我方ヨリ從前ノ如ク主トシテ綿布ヲエテイオピアニ輸入スルコトヲ得ルナリ(八)本協定ハ基本條約ト一體ヲ爲スモノトシ基本條約ハ本協定實施ノ日ヨリ

區 署 院

林  
密  
院

三年間其ノ效力ヲ延長シ此ノ期間滿了ノ六月前ニ兩國ノ孰レヨリモ廢棄ノ通告ナキトキハ尚一年間存續シ爾後三月前ノ豫告ヲ以テスル廢棄ナキトキハ暗黙ノ更新ニ依リ一年宛其ノ效力ヲ延長セラルルモノトシ(九)本協定ハ批准ヲ要シ批准書ハ成ルベク速ニ口一マニ於テ之ヲ交換スベク本協定ハ批准書交換後十日ニシテ實施セラルルモノトスルニ在リ  
按ズルニ本件ハ伊太利國ノ「エテイオピア」國

併合ニ因リ日本國「エテイオピア」國間修好通商條約ノ消滅シタルヲ動機トシ日伊兩國間ニ於テ其ノ現行通商航海條約ニ若干ノ變更ヲ加ヘタルモノヲ以テ帝國ト「エテイオピア」其ノ他ノ伊太利國殖民地及屬地トノ間ノ通商關係ヲ規律スルコトヲ主眼トシテ同條約ノ追加協定ヲ締結セントスルモノニシテ其ノ趣旨ニ於テ妥當ナリト爲スベク其ノ條規ニ於テ伊太利國殖民地及屬地ニ對スル本邦產品ノ輸入額ニ付割當ノ制限ヲ受クルコト



トシタルハ現下ノ情勢ニ考ヘ已ムヲ得ザル  
モノト認ムルノ外ナク帝國ノ滿洲國ニ對ス  
ル關稅上ノ殊遇ヲ最惠國待遇ノ範圍外トシ  
又基本條約ノ有效期間及廢棄豫告期間ヲ延  
長シタルハ之ヲ可トスベク其ノ他別ニ指摘  
スベキ廉ヲ認メザルニ由リ帝國ニ於テ此ノ  
際本件協定ヲ御批准アラセラルルハ當然ノ  
御措置ト申上グベク乃チ本件ハ此ノ儘可決  
セラレ然ルベキモノト思料ス  
右謹デ審査ノ結果ヲ報告ス

議長(平沼) 別ニ御發言ナキ故直ニ採決スベシ  
本案賛成ノ各位ノ起立ヲ請フ

(全員起立)

議長(平沼) 全會一致可決セラレタリ  
本日ハ之ニテ閉會ス

聖上入御

(午前十時三十五分開會)

議長男爵平沼騏一郎



除セラレタルモノアルトキハ市町村  
長其ノ他名簿調製義務者ハ臨時ニ其  
ノ者ノ選舉人名簿ヲ調製スベシ  
前項ノ選舉人名簿ニ關シ必要ナル規  
定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 北海道會法府縣制市制町村制  
又ハ此等ニ基キテ發スル勅令ニ依リ

設置スル議會ノ議員ニシテ支那事變  
ニ際シ召集中ナルニ因リ其ノ職ヲ失  
ヒタル者召集ヲ解除セラレタルトキ  
ハ其ノ職ニ復ス

前項ノ場合ニ於テ議員ノ數其ノ定數  
ヲ超ユルトキハ議員ノ任期間其ノ議  
員ノ數ヲ以テ議員ノ定數トス但シ議

員中閣員ヲ生シタルトキハ之ニ應ジ  
其ノ議員ノ定數ハ本來ノ議員ノ定數  
ニ至ル迄減少スルモノトス

前項ノ規定ハ選舉區アル場合ニ於テ  
ハ各選舉區ノ配當議員數ニ付之ヲ適  
用ス

前三項ノ場合ニ於テ必要ナル規定ハ

命令ヲ以テ之ヲ定ム

### 附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本法ハ本法施行前召集ヲ解除セラレタ  
ル者ニ付テモ亦之ヲ適用ス

勅令第 號

臺灣總督府地方官官制中左ノ通改正ス  
第二條第一項中屬 專任四百七十八人  
ヲ屬 專任五百二人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス